ピアノ調律師より

オトノトビラ

OTONO TOBIRA

Vol.9



巻頭特集

クリストフォリ・ピアノを訪ねて

歴史的ピアノ探訪

ピアノ調律師より
OTONO TOBIRA
オトノトビラ
Vol.9

2 巻頭特集 クリストフォリ・ピアノを訪ねて
歴史的ピアノ探訪
中部支部 伊東基貴

6 ピアノ調律師は何をしているのか
ピアノ調律師のお仕事
関西支部 吉川武文

8 ピアノライフを楽しもう!!
ピアノライフのためのグッズ特集

10 第3回 ストリートピアノ
- 福岡県小郡市 ● 京都府京都市
- 長野県松本市 まつもと夢ピアノ まつもと街ピアノ

14 調律師 趣味の本
「ユダヤ人音楽家」その受難と栄光
牛山 剛 著 (株)ミルスト発行 日本ピアノ調律師協会 九州支部 足立 修治



本誌及びバックナンバーは（一社）日本ピアノ調律師協会のホームページからご覧いただけます。

日本ピアノ調律師協会

スマホの場合は右記のコードを読み取ってください。

巻頭特集

クリストフォリ・ピアノを訪ねて

歴史的ピアノ探訪

中部支部　伊東基貴

来る11月11日㈬～12日㈭に開催される、第6回アジアピアノ技術者協会（APTA）豊橋大会のテーマは「ピアノ温故知新 Bridging Old and New」。その会場では、シンポジウムをはじめとするいろいろな企画が予定されています。両日にはコンサートもあり、一日目にフォルテピアノ奏者の川口成彦さんによる、歴史的ピアノ演奏とレクチャーがプログラムされています。そこでクリストフォリ・ピアノのレプリカが使用される予定です。ピアノ調律師にとって、300年以上前の1700年代初頭にイタリアのフィレンツェでバルトロメオ・クリストフォリによって製作されたピアノは、現代のピアノへ繋がる原初とされています。

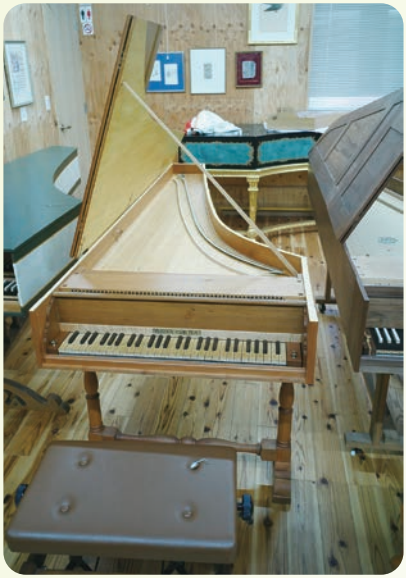
今回そのレプリカを製作されたのが、久保田チェンバロ工房の久保田彰さんです。11月の豊橋大会を前に、製作された現場を訪ねてみることにしました。久保田さんはチェンバロつくりを始めて50年あまり、現在も数名のスタッフと共に精力的な活動をされています。多く国内の供給をはじめ、海外からの需要にも応えていらっしゃるとのこと。まず工房に入ると、製作途中や完成した何台かのチェンバロたちに圧倒されます。それらの内部をのぞいたり触らせてもらったりでずいぶん時間が経ち、目的のクリストフォリ・ピアノはその中にあって、精緻な木工技術による無垢な質感の佇まいです。単体のアクションモデルで確認してから全体の音を出し、次に鍵盤と



クリストフォリ・ピアノ レプリカとアクションモデル

アクションを引き出しつぶさに拝見し、更に作業別の現場視察なども。

久保田さんから渡された「クリストフォリ・ピアノについて、雑感」という文章によると、〝チェンバロ製作を始めてから、クリストフォリのピアノについて、気になっていた。〟とあり、ほぼ独学によっての50年以上前から眼中にあったことになります。しかし、〝その真価を知るのはピアノ生誕300年のイベント会場で、〟と述べています。その後の研究を経て、〝もちろん苦労はしたが、それ以上の喜びに満ちた作業で、約半年後2008年に完成。〟とあります。製作ビジョンの早熟さに驚きましたが、〝数年後にドイツ様式のジルバーマンピアノ、ポルトガル様式のアントゥネスピアノの製作を行うに至った。〟ということです。若いスタッフのひとりから、チェンバロが生業ならフォルテピアノは、久保田さんの趣味みたいなものです、という意味合いを冗談まじりに話していましたが、そんな自由な空気がみなぎった工房であることを大いに実感できる訪問となりました。



クリストフォリ・ピアノ レプリカ



アクションを取り出した様子



自由な空気がみなぎった久保田チェンバロ工房



久保田チェンバロ工房

さて、アジア大会のコンサートでは、国内はもとより近年ヨーロッパでの演奏活動を果敢に展開しているフォルテピアノ奏者の川口成彦さんと、クリストフォリ・ピアノとの相まっての演奏を、楽しみにしたいと思います。

ここで、ピアノという楽器の歴史を、簡単に振り返ってみます。

１７００年代初頭、イタリアのフェレンツでメディチ家に仕えていた楽器職人のクリストフォリが、打弦方式による大型チェンバロ gravicembalo col piano e forteという鍵盤楽器を製作したのがピアノの原初とされています。その後、ドイツ人オルガン技師のジルバーマンによって、打弦のアクションメカニズムが跳ね上げ型ウイーン式のシュタイン、ワルター、シュトライヒャーへ。また、突き上げ型イギリス式のツンペ、ブロードウッドらへと伝え、それらの変遷がなされます。この時期は、モーツアルト、ハイドン、ベートーヴェンらに代表されるクラシック音楽の古典的な時代とされています。

１８００年代をむかえると、シューベルトを発端とした、シューマン、ショパン、メンデルスゾーン、リスト、ブラームスといったロマン派の華々しい時代となります。ピアノはウイーン式のベーゼンドルファー、イギリス式のエラール、プレイエルなど。中でもエラールがダブル・エスケープメントといった革新的メカニズムを開発します。

１８５３年には、ドイツからアメリカへ移民したスタインウェイアンドサンズがニューヨークで、ドイツのベルリンでベヒシュタイン、ライプツィヒでブリュートナーが、それぞれ創業。そろって今日まで続くブランドを立ち上げています。表現力の高まる音楽性と、産業革命がもたらす工業生産技術がピアノの生産にも寄与され、高度な品質向上がもたらされ、時代は近代へと向かいます。

日本国内では、長崎の出島にオランダから医師だったシーボルトが、１８２３年に

持ち込んだとされているイギリス製スクエアーピアノが最古とされていますが、1900年には国産初ピアノ組立てによって、山葉寅楠を中心に山葉直吉や河合小市らとともに産業がはじまることになります。

そして、20世紀になると、ピアノの演奏レパートリーが増すにつれ、サイズが大型化され、演奏技術はより磨きぬかれます。1927年にポーランドで創設されたショパン国際コンクールは、世紀を越え権威ある国際コンクールとして、今日まで高いステータスを放っています。日本のピアノメーカーは、品質向上のオリジナリティによって、世界的にイニシアティブを発揮できる企業となってきているといっても過言ではないでしょう。

今後、ピアノ産業のそこに伴う技術者にとって、AI制御の導入による製品開発が、もう既に現実になっているのかもしれません。300数十年の歴史を、簡単に振り返ることにはなかなかもどかしさはありますが、第6回アジアピアノ技術者協会（APTA）豊橋大会のテーマ「ピアノ温故知新 Bridging Old and New」に、あらためて想いを巡らせてみてはどうでしょうか。



久保田チェンバロ工房



工房にあったスクエアチェンバロ（ヴァージナル）



制作中のトイピアノ



ピアノ調律師は何をしているのか

ピアノ調律師のお仕事



関西支部　吉川武文

1. 正しいピアノ
2. 曲がったピアノ
3. 正しいピアノにするために

■ 正しいピアノ

先生のピアノだと弾けるのに、
自分のピアノじゃ弾けないとか、
自分のピアノだと弾けるけど、
先生のピアノじゃ弾けないとか
良くある事です。
なぜ、そんな事が起こるのか。何が原因なのか。

ピアノのメーカーや機種が違うから？
それも考えられる原因の1つですが、ピアノが正しく調整されているか正しく調整されていないか、ということも原因として考えられます。
先生のピアノと自分のピアノのどちらかのピアノが正しく調整されていてもう片方が正しくない。もしくは、両方とも正しく調整されていないのかもしれません。

世界のすべてのピアノの鍵盤は1センチ（10mm ±0.5）下がります。
ピアニストはその1センチのなかで、小さい音から、大きな音優しい音色から激しい音色を表現します。

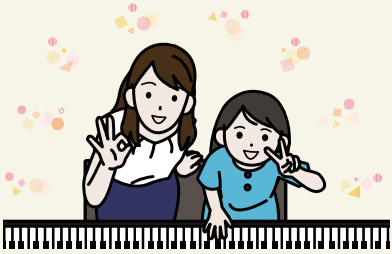
たとえば、その1センチ（10mm）が9mmだったり、11mmだったり、バラバラだったらどうでしょう。

すべての鍵盤の下る量が正しく10mmに調整されたピアノで練習をしたのに、正しくないバラバラのピアノで弾くのは難しいです。

自分のピアノも先生のピアノもどちらも正しく調整されたピアノなら、両方で同じように弾けるのです。







■ ゴルフに例えてみましょう。

ゴルフが上手くなりたいのに、曲がったゴルフクラブで練習をしても上手くなりません。
正しいゴルフクラブで練習をすることが大切です。
ピアノも一緒です。
正しくないピアノで練習をしても上手くはなりません。

- 音が狂っている
- タッチが正しくない
- 音色がバラバラなピアノは「曲がったピアノ」です。



■ 正しいピアノ（曲がっていないピアノ）で練習するためには どうすればよいのか。

正しいピアノにするのがピアノ調律師です。
ピアノの部品は木やフェルトなどでできています。
それらの部品はピアノを弾くことで、部品が摩耗したり、
温度湿度の影響で、反ったり変化します。
その変化を正しい基準に調整するのがピアノ調律師です。

「ピアノの調律師はピアノの音を合わせる人」と、理解されていると思いますが、ピアノの調整の中で音律をあわせる作業以外がとても大切です。



● まずは鍵盤の高さ（ピアノ調整の基本の基本）

鍵盤を押さえると1センチ（10mm）下がります。
鍵盤を触っていない状態（静止時）で鍵盤が同じ高さに揃っている事が最低条件です。
全ての鍵盤が同じ高さに揃っていて、そこから1センチ（10mm）下がる。
静止時の全ての鍵盤の高さが揃っていないとどうでしょう。
静止時の高さが低い鍵盤は下がる量が少なくなりますし、高いと多く下がります。

● 次に下がる量

全ての鍵盤の高さが揃っていて、下がる量（10mm）も全て同じでいないと正しいピアノとは言えません。（下る量が少ないと音は小さくなり、多いと大きくなります）

● 鍵盤を正しく調整後、内部機械調整

鍵盤が10mm下がる間に、ピアノ内部の機械は弦を叩く動きをします。
その間に調整が必要な箇所はアップライトピアノで4箇所、グランドピアノで7箇所、それらが全ての鍵盤で正しく、調整されてタッチが完成します。

音律を合わせて鍵盤の調整、内部機械調整が完了して、
最後に音色の調整をして正しくて良いピアノになるのです。

調律師はこのような作業をしています。
上記以外にもペダルの調整や譜面台、外装のチェックもします。



ピアノライフを楽しもう!!

ピアノライフのためのグッズ特集

ピアノカバー

ピアノカバーは職人が一つ一つ丁寧に
作り上げた安心安全の国内縫製



お客様のピアノに
合わせたピッタリの
オーダーも可能です！







新商品

鍵盤カバー





ピアノカバーとお揃いの鍵盤カバーが作れます！
シンプルなデザインから、リボンがアクセントのかわいいデザインも。
お友達やお子様へのプレゼントにもピッタリ！





オーソドックスなフェルト生地の
鍵盤カバーにネコとウサギのイラスト付き
豊富な色展開でどの色にするか迷ってしまう！

詳細は「アルプス　ピアノ」で検索



ピアノカバーはピアノの
埃除けや傷防止だけではなく、
お部屋のインテリアとしても
選ばれています。
季節に合わせて変えれば
お部屋の雰囲気も
変わります！





PIANO MATE

DESICCANT FOR PIANO

吸湿と放湿を繰り返すB型シリカゲルの乾燥剤

累計販売**400万個以上**の信頼実績

効果持続、調律サイクル１年に対応（調律師さん推奨）

乾燥剤の交換は忘れがちで面倒な作業です。ですから年１回の調律時に依頼されるのが通常です。その為には持続性のあるタイプを選ぶことが重要です。B 型シリカゲルは、吸湿と放出を繰り返しピアノ内部を快適な湿度（関係湿度 50〜65%）にコントロールする理想的な作用を備えた湿気調整剤です。吸湿した時でもベトつかず、潮解性を示して液体になることはなく安全です。



すぐれた調湿効果　高湿の時にはすぐ吸湿、低湿になれば放湿し、ピアノ内部に快適な湿度**65%〜50%**にコントロールします。

防錆効果　気化性防錆剤とシリカゲルとの相乗効果により、ピアノの弦やピン等の金属部分を錆から守ります。

防虫効果　臭いの少ない気化性防虫剤を配合

第3回 ストリートピアノ

福岡県 小郡市

場所 イオン小郡ショッピングセンター あまのがわ広場（福岡県小郡市大保弓場 110）

HEIKICHI ピアノ（ヘイキチピアノ）

HEIKICHI ピアノとは

名前の由来となった西鉄小郡駅の看板猫・平吉（へいきち）のように、このピアノもみなさんに愛されることを願っています。

福岡県小郡市が令和４年４月に猫大好き市民から**ヤマハのグランドピアノ C5X** の寄贈を受けました。
小郡市在住の画家の方が猫をモチーフに油彩絵具で描かれました。

ペイント表面は凹凸がかなりあり、触ることもできます。

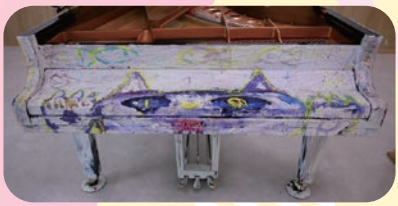
自由に弾くことができ、小郡七夕フェスタ・クリスマスコンサート等で利用されています。











京都府 京都市

場所 京都府京都市右京区嵯峨天龍寺車道町
JR 嵯峨嵐山駅の隣にある
19世紀ホール内

9 時～16 時 30 分　入場無料
誰でも弾けます
水曜日定休　12 月～2 月は休業



ジョン・ブロードウッド UP
100 年前に製造されたピアノ

観光客が集まる京都の嵐山、人気のトロッコ列車の駅に隣接するホールとカフェの中に設置されていて、さまざまな国の方が弾いておられます。
ここのピアノは「旅ピアノ」と呼ばれていて、旅行で嵐山を訪れた方が、旅の記念にという感じで演奏されたり、近所の方が散歩のついでに演奏されたりという事です。
ベートーヴェンが愛用していたイギリスのメーカーのピアノで見た目も音も、ふだん弾いているピアノとはまた一味違います。







長野県 松本市

～まつもと夢ピアノ～

場所 長野県松本市深志1丁目1番1号
松本駅　東西自由通路
お城口3階エレベーター北側

ピアノ：YAMAHA　G2E

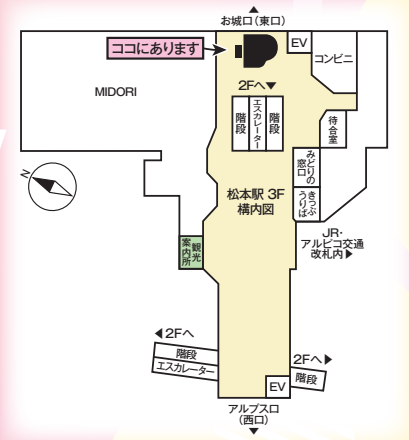
三ガク都・松本の玄関口に響く音

長野県松本市は、北アルプスを望む「岳」、国宝・旧開智学校などに象徴される「学」、そしてセイジ・オザワ 松本フェスティバルをはじめとする音楽の街としての「楽」。この三つの魅力から「三ガク都」と呼ばれています。
その「楽」を街の中で身近に感じられる場所の一つが、JR松本駅の東西自由通路にある「楽都まつもと夢ピアノ」です。
このピアノは、「松本の街に音楽があふれる空間をつくりたい」という医師・相澤徹氏の思いから始まりました。当時、松本ロータリークラブ会長を務めていた折井正明氏を中心に構想が具体化。ロータリー財団の地区補助金やクラブの支援を活用してグランドピアノを購入し、その運営のために一般社団法人まつもと夢ピアノを設立。2019年、松本駅に設置されました。





以来、子どもから大人まで、多くの人がこのピアノに触れています。
クラシックやポップスなど、さまざまな音楽が行き交う中、松本らしい微笑ましい光景も生まれています。
ある日、6歳くらいの女の子二人が、初対面にもかかわらず「きらきら星」を一緒に演奏していました。一人はピアノ、もう一人はヴァイオリン。楽譜も打ち合わせもない、偶然から生まれた小さなセッションです。
「岳」は山へ、「学」は学校や博物館へ。そして「楽」は、駅という誰もが集まる場所で、人と人をつなぐ音楽として息づいています。
「楽都まつもと夢ピアノ」は、今日も松本の玄関口で、街の「楽」を奏でています。



※利用に際してのお願い
①利用時間は8～19時になります。
②演奏にあたっては、駅を利用される方の通行やアナウンス等へのご配慮をお願いします。
③演奏の撮影等をされる際には、意図しない映り込みなど、周囲の方への配慮をお願いいたします。

長野県松本市

～まつもと街ピアノ～



場所 長野県松本市中央２丁目２０－２
信毎メディアガーデン 1F

ピアノ：YAMAHA　C5

街の中に音楽がある風景

松本市の中心市街地にある「信毎メディアガーデン」。その１階に、誰でも自由に演奏できるグランドピアノ「街ピアノ」が置かれています。

このピアノは、一般社団法人松本芸術文化協会の創立 30 周年記念事業として、「街なかで音楽を身近に感じ、楽しんでほしい」という思いから寄贈され、2020 年７月に設置されました。

信毎メディアガーデンは、信濃毎日新聞社の本社機能だけでなく、市民が集うコミュニティー空間として 2018 年に開館しました。１階の広場にはさまざまな人が行き交い、買い物や食事、イベントなどを楽しんでいます。そこに置かれた一台のピアノから、ふと音楽が聞こえてくる――。そんな風景が、この場所の日常になっています。

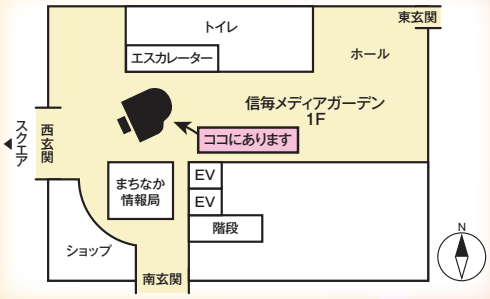
設置当初の弾き初めには、スズキ・メソード松本支部のピアノ科の子どもたちが演奏しました。以来、子どもから大人まで、さまざまな人が思い思いに鍵盤に向かっています。

ここでは、演奏を目的に訪れる人ばかりではありません。買い物の途中に足を止める人、子どもの演奏を見守る家族、たまたま通りかかって音色に耳を傾ける人。演奏する人と聴く人との距離が近いのも、この「街ピアノ」の魅力です。

音楽は、コンサートホールだけにあるものではない。

街の中にピアノが一台あることで、そこに小さな「聴く」「弾く」「出会う」が生まれていく。

「楽都・松本」に、また一つ、音楽が日常に溶け込む風景があります。



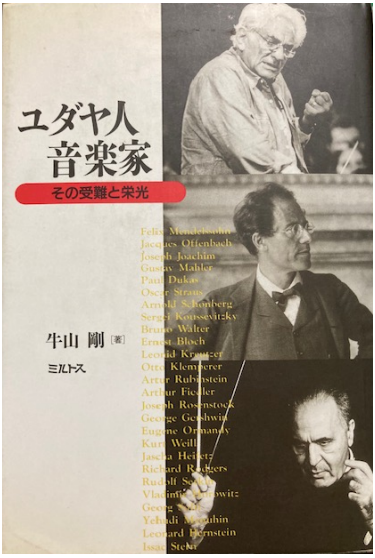


利用に際してのお願い
①利用時間は９～20 時になります。
②併設ホールでのイベントの都合により、不定期で演奏できない場合があります。
③合奏や歌唱は基本的にご遠慮いただいております。

調律師 趣味の本

「ユダヤ人音楽家」その受難と栄光

牛山 剛 著
(株)ミルスト発行



日本ピアノ調律師協会
九州支部
足立 修治



ずいぶん前の話になりますが、イスラエルに行ったことがあるという音楽愛好家の方のお宅にお邪魔した時のことです。

そのへんに無造作に置かれた一冊の本に私は目を奪われた。バーンスタインとマーラー、そしてブルーノ・ワルターが表紙にあって(第二版発行以降の表紙)、私はついその本を手に取り…。すると、それを見たその音楽愛好家の方が、「活躍してる音楽家はほとんどユダヤ人なんです」とさらりと言った。

それを聞いた私は、「ふ~ん…」と言いながら、数ページ進んだところで驚いた!そこには自分が日ごろ興味を持っている音楽家たちの名前がずらり並んでいたのです…。

私はそれまで「ユダヤ人」と音楽家がどうのとか考えたこともありませんでした。演奏者にいたっては、欧米人かアジア人かの意識でしか聴いていなかったかもしれない…。

しかし、この本を知ってからというもの、多くの民族で構成されているいまの音楽界、その音楽家たちの音楽に対してのスタンスの取り方の違いというのを想像するようになりました。

この本は、牛山 剛(うしやま たけし 1931~2022年)氏とおっしゃるその当時音楽プロデューサーとして活躍されてた方がまとめた本なのですが、よくぞこんなことに

着目し調べ上げたものだと驚嘆します。

「はじめに」の中で、まったく謙虚に、この本は、「ユダヤの音楽と音楽家たちのはなし」であり、「音楽を通してユダヤとユダヤ人の歴史を歩く気ままな旅である」と書かれていますが、決して「気まま」さを感じさせる箇所などありません。音楽（音楽そのものの立場とでも言おうか…）の流れと共に、まるで人類の大きなテーマに向かって突き進んでいるかのような錯覚さえ覚えます。

この本は、「ユダヤ人に対する二つの問い」というところから始まります。

一つは、世界の人口に対してユダヤ人が占める割合というのはとても低いのに、ノーベル賞受賞者数となるとその比率がものすごく高くなるのは何故かということ。

そして、二つ目の問いというのが、この本の最も言いたい部分となっています。

私が、本当に驚いた部分ですが、ここには、この本が発行された1991年頃までに活躍していた91名の音楽家の名前が記されています。

あまり紙面を使うわけにいきませんが、その中から上記3名以外の10名だけ書かせて頂きます。

ジョージ・ガーシュウィン
バート・バカラック
フェリックス・メンデルスゾーン
ダニエル・バレンボイム
ウラディミール・ホロヴィッツ
アルトゥール・ルビンシュタイン
ヤッシャー・ハイフェッツ
ギドン・クレーメル
ムスティスラフ・ロストロポーヴィチ
ボブ・ディラン

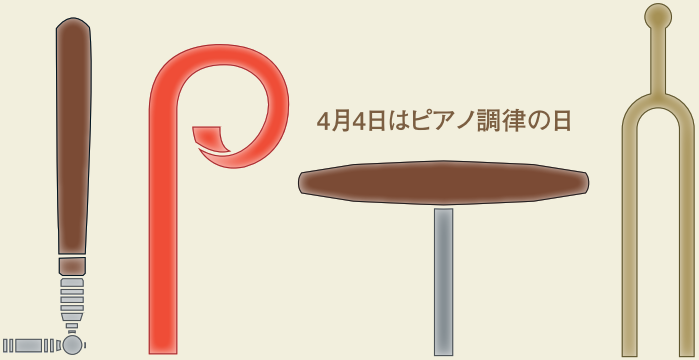
この音楽家たちの名前が書かれた数ページというのは、何分も時間を掛けて見入りました。いったいどういうことだ!?どうしてこんなことが…という気持ちが湧いてくるのです。きっとこの民族には秘密がある…。

著者の牛山氏は、この中のメンデルスゾーンが登場するまでは、音楽界に主だったユダヤ人の音楽家がいないこと、メンデルスゾーン以降に爆発的に世界的ユダヤ人音楽家たちが生まれている事に着目し、いったいそれは何故なのか…バッハやモーツァルトの時代にはいったいユダヤ人たちは何をしていたのかということを第2の問いとし、その答えを見つけるべく、そしてまた、その先に広がる解決し難い問題にまで触れ、それはそれは長い旅（そう感じさせる旅）をし、この本を完成させております。

この本の読者は、きっと私と同じように、ダビデ王の楽器と音楽（音）を想像し、ユダヤの「コル・ニドレイ」の調べをもとにした二人の作曲家の曲を聴きたいと思い、メンデルスゾーンの有名なホ短調のヴァイオリン協奏曲ともう一つのニ短調ヴァイオリン協奏曲を聴き比べたいと思うに違いありません。そして、ユダヤの音楽ありきのキリスト教の音楽というものを意識し、「音楽」を守り抜く人々のことを思うに違いありません。

この本を三分の一ほど読み進めたところには、「…あえて民族主義に傾く危険をおかしても、ユダヤ民族の特質をその歴史を通して見ることは、われわれ日本人にとって意味のあることだと思った」という著者の言葉があります。

牛山氏は、きっと大切な何かを日本人なら感じて、そして生かしてくれるに違いないと期待しているのではないでしょうか。



4月4日はピアノ調律の日

お元気ですか、あなたのピアノ。

2011年度よりピアノ調律職種に国家資格制度が導入されています。
ピアノの調律は、厳正な技術審査を経て入会した日本ピアノ調律師協会会員にお任せください。

日本ピアノ調律師協会は、わが国の音楽文化の発展に寄与することを目的として、さまざまな事業を行っています。

1. ピアノ調律職種国家検定の指定試験機関として厚生労働省より指定され、試験の実施に当たっています。
2. 4月4日の「ピアノ調律の日」をPRする記念行事として、全国の支部では地元出身の若い音楽家たちによる演奏会を積極的に企画し、次代を担う若手を応援しています。
3. 「12歳のハローワーク」と題して、小学校の総合学習の時間にピアノ調律師の仕事やピアノの良さを紹介する授業を行っています。
4. 歴史的なピアノの調査研究と修復活動を行っています。
5. 新人向けの基礎研修や、ベテランの更なるレベルアップを目指す研修など、さまざまな研修を行っています。
6. 国際活動を通じた技術交流を行っています。






オトノトビラ OTONO TOBIRA Vol.9

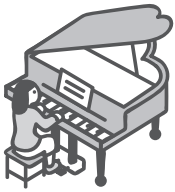
令和 8 年 10 月 30 日発行

編集・発行
一般社団法人 日本ピアノ調律師協会

〒 101-0021
東京都千代田区外神田 2-18-21
楽器会館 5 階

TEL 03 − 3255 − 3897
FAX 03 − 3255 − 9246
E-mail info@jpta.org

編集・デザイン
中部印刷株式会社





編集後記

オトノトビラは、一般社団法人日本ピアノ調律師協会の会員が制作しております。協会会員は、研修会、研究会、会員同士の情報交換など、よりよいピアノ技術を皆さまにご提供できるように活動しております。
今号はピアノの生みの親であるクリストフォリさんのお話でした。ピアノが誕生して音楽のある楽しい時間を過ごせていることを幸せに思います。
発行にあたり、ご協力をいただきました皆さまに感謝を申し上げます。

広報局　吉川武文





読者さまからの投稿募集

オトノトビラでは、読者のみなさまからの

ピアノに関する投稿を

お待ちしております。

- ●私流ピアノの楽しみ方・ストリートピアノ体験記
- ●ペットとピアノのエビソード・珍しいピアノ見つけました
- ●他、こんな記事が読みたいなどのご希望

文章と、写真やイラストを下記まで送信してください

郵送は受け付けておりませんのでメールでお願いいたします

送付先（オトノトビラ係）| kouhou2026@jpta.org

※投稿いただいた原稿は将来的に協会発行物、
ホームページ等に掲載されることがありますので、このことをご承諾の上ご投稿ください

発行 一般社団法人 日本ピアノ調律師協会
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-18-21 楽器会館5F ☎03-3255-3897（事務局）

一般社団法人 日本ピアノ調律師協会
Japan Piano Technicians Association

HP https://www.jpta.org E-mail info@jpta.org